

ワタミヒゲナガゾウムシの
有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：ワタミヒゲナガゾウムシに関する有害動植物リスク分析の開始

1-1 開始：(開始するに至った問題の本質、目的)

ワタミヒゲナガゾウムシは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、ワタミヒゲナガゾウムシの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1-2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1-3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1-3-1 経路

ワタミヒゲナガゾウムシが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1-3-2 潜在的検疫有害動植物

ワタミヒゲナガゾウムシ（学名：*Araecerus coffeae* (Fabricius)）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1-4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1-5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2-1 植物検疫上の取り扱いに影響するワタミヒゲナガゾウムシの特性等

2-1-1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2-1-2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2-1-3 日本での分布状況及び公的防除の有無

ワタミヒゲナガゾウムシは、本州、四国、九州及び沖縄に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2-1の結論

ワタミヒゲナガゾウムシは、本州、四国、九州及び沖縄に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名	名	ワタミヒゲナガゾウムシ ^{3)、4)} (コーヒーヒゲナガゾウムシ) ⁴⁾
学名	名	<i>Araecerus coffeae</i> (Fabricius) ⁴⁾
英名	名	coffee bean weevil ^{1)、4)}
分類	類	コウチュウ目 (Coleoptera) ^{1)、4)} ヒゲナガゾウムシ科 (Anthribidae) ^{1)、3)、4)}

分布：(日本) 本州、四国、九州、沖縄³⁾
(世界) 汎世界的に分布³⁾

寄主植物：ワタ、ニンニク、ラッカセイ、カンキツ類、コーヒー、サツマイモ、アボカド、サトウキビ、ジャガイモ、トウモロコシ、乾燥貯蔵生産物など¹⁾

形態・生態：成虫は暗褐色から黒褐色のまだら模様で、体長は3～5 mm。幼虫は白色で5～6 mmになる。雌成虫は約50卵を寄主植物に産みつける。幼虫は植物の内部に食入して発育する。^{1)、6)}

被害：熱帯、亜熱帯地域のコーヒー、カカオ生産地では重要害虫となることがあるが、適切に管理された貯蔵生産物では大きな被害はない。¹⁾

ベクター

・系統：植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生の有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。²⁾

防除法：米、麦類、トウモロコシ等について、甲虫類に対する登録農薬が、カンキツ類に対して、ワタミヒゲナガゾウムシに対する登録農薬がある。⁵⁾

文献：1) CAB International (2011) Crop Protection Compendium. CABI (<http://www.cabi.org/cpc/>)
2) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011/10). SilverPlatter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)
3) 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 編 (1999) 日本産昆虫目録データベース. 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室.
4) 日本応用動物昆虫学会編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会. 東京. 日本. 387pp. (<http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>)
5) 独立行政法人農薬検査所. 農薬登録情報検索システム. 農林水産消費安全技術センター. 東京. 日本. (<http://www.acis.famic.go.jp/>)
6) 吉田敏治・渡辺直・尊田望之 (1989) 図説貯蔵食品の害虫 実用的識別法から防除法まで. 全国農村教育協会. 東京. 268pp.